



支出の内訳

議論の中から新発見

◆庁舎の総合管理を推進事業(5203万円)

維持管理は。

Q 庁舎は、平成29年から32年までの3年間の長期継続契約。空調の部品交換、建築設備、地下タンク漏洩など3年目の定期点検だ。光熱費などは、計画通り縮減された。

Q 宿日直業務は。

A シルバー人材センターに委託、特に問題なし。

Q 課題は。

A 1階の福祉部門が奥深いため南へ移動を検討。

◆空家等実態調査実施事業(540万円)

Q 調査結果と内容は。

A 空家の可能性がある物件620件。老朽化が激しい物件が40件。また、損壊しているなどの課題があり、庁内調整会議や空家等対策協議会で検討したい。

Q 利活用の状況は。

A 利活用しやすい物件もあり、直ぐに使える空家も多い。所有者の聞き取りを進めているが、意見、考えをしっかりと聞く必要がある。

◆災害対策の充実と推進事業(5006万円)

Q 非常用備蓄品や備品は。

A 備蓄品は、目標値の数量の見直しを進めると

共に予算の平準化を図った。備品は、災害用移動炊飯器を佐屋中、永和中に、簡易組立式トイレを立田中、八開中、永和公民館に、投光器等を立田南部、北部の両コミュニティセンターにそれぞれ配置した。

Q 自主防災組織は。

A 災害時に、小学校単位ぐらいで横の連携ができるよう、広域化の集合体を検討した。



▲市役所の1階受付窓口